

♪ 2017年度 **poco a poco** ♪

Nr. 20 2018年2月1日(木) 文責: プファイル・辰巳

光陰矢の如し

2018年の年明けから早1か月。短い3学期がさらに短く感じられる今日この頃です。3学期の授業日数は残り30日余りとなりました。一日一日を大切にしたいものですね。

音楽の授業では、「送る会」や「卒業式」の曲の練習も始まっています。来週には3学期ミニコンサートのご案内も出そうと思っています。ご準備の方、よろしくお願いします。



<作曲家のこの一曲 ⑩ カミーユ・サン＝サーンス 組曲「動物の謝肉祭」>

今年のファッシング(カーニバル＝謝肉祭)は2月の半ば。例年より少し早めですが、仮装行列の日のお天気はどうでしょうね。



さて、そのカーニバルを題名にした音楽があります。フランスの作曲家、サン＝サーンス作曲の「動物の謝肉祭」です。題名を聞いてもピンと来ない方、チェロとピアノで奏でられる「白鳥」という有名な曲はご存知でしょうか? 「白鳥」は、この組曲の中の1曲です。

「動物の・・・」というくらいですから、白鳥のほかにも、たくさんの動物が登場します。組曲は全部で14曲あり、そのうちの8曲に動物の名前が出てきます。それ以外の曲も「とりかご」や「水族館」というように動物に関係する曲ばかりです。

「象」「カンガルー」「亀」「かっこう」・・・と題名を並べるだけでも楽しい感じがする組曲です。先述の「白鳥」が特に有名で、小学校音楽科の鑑賞曲にもなっていますが、是非、それ以外の曲も一度聞いてみてください。

サン＝サーンスは、1835年生まれのフランスの作曲家です。モーツァルト

の再来かといわれるほど早熟で、ピアノ演奏に秀でた子どもだったそうです。

13歳でパリ音楽院に入学、16歳ですでに交響曲を書き上げてしまうほどでした。作曲とパイプオルガンを勉強し、1857年、22歳の若さで当時パリでも最高峰と言われたマドレーヌ教会のオルガニストに就任しました。

演奏家としても作曲家としても認められ、86歳の長寿を全うするまでフランス国民から尊敬を集めたサン＝サーンスは、亡くなったとき「国葬」として盛大な告別式が開かれたそうです。

80年以上の長い生涯の中で作曲した曲は、ピアノ曲、オルガン曲、そのほかの器楽曲、交響曲・・・と多岐にわたっています。

中でも「白鳥」の曲は、湖水のさざ波と水面を優雅に泳ぐ白鳥の姿を美しいメロディで表現した名曲です。



ちょっとだけ 演奏会情報

- 2月 9日(金) フランクフルト・カイザードームにて
20時から パイプオルガンコンサート～「女王様は踊る！」
- 2月 11日(日) アルテオーバー 大ホールにて
19時から ペテルスブルグ・マリンスキー劇場オーケストラ
プロコフィエフ ピアノ協奏曲 第3番
ショスタコーヴィッチ 交響曲 第4番 ほか
- 2月 14日(水) アルテオーバー 大ホールにて
20時から ドイツ・シンフォニーオーケストラ・ベルリン
クリスティアン。テツラフのピアノ
シベリウス ピアノ協奏曲
ブルックナー 交響曲 第6番 ほか
- 2月 18日(日) アルテオーバー モーツァルトホールにて
16時から ファミリーコンサート
「展覧会の絵」

